■広報いわむろ 第三一九号 昭和六十三年(一九八八年)十一月一日発行(毎月一回一日発行) ■発行 岩室村役場 ■編集 総務課 ■新潟県西蒲原郡岩室村大字西中八六〇(〒九五三—〇一) ■☎〇二五六—八二—四一一一(代) ■印刷 北洋印刷㈱

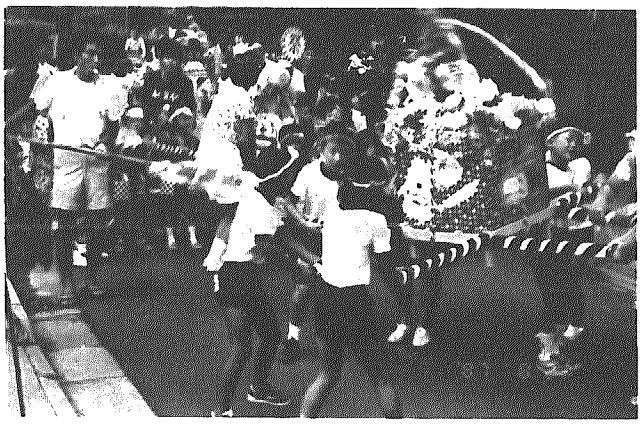
シリーズ 8

樋曽 貴人が潜んだ歴史の街

■今月の「おじゃまします——地域情報ネットワーク」は、静かな自然環境に恵まれ、新しい地区内交流も芽生えた樋曽地区におじゃましてみました。

「樋曽」というと、地区西側に山林、そして東側に水田地帯が広がる静かで、自然環境にも大変恵まれた地区で、古くから農業、林業が営まれ歴史ある集落です。

この樋曽は、その昔ある貴人がひそんでいたことから「樋曽」と名付けられたとの言い伝えもあるという歴史的にも早くから栄えてたところです。そのなごり?としてか、この地区には神社が数多く、羽黒神社、日枝神社、諏訪神社、神明社、十二社などの五社がまつられ、そのため、年間をとおしていろいろな祭り、行事が行われています。しかし、それらの祭りも年々簡素化されてきているなかで、いまなお盛大に行われているものもあります。その一つに、諏訪神社(山王神社)で毎年行われる年越行事。これは、大晦日に二年参りに訪ずれる人たちのため、地区の若者会の人たちが中心になって行っているもので、当日は、神社境内で火をたき、訪ずれる人たちにあま酒などをふるまったりしています。「毎年大晦日の晩には大勢の人たちが集まりますよ。この催しは、地区の若者たちが中心に毎回いろんな趣向を凝らしてやってくれますので楽しいですね。昨年は福引きなどもやったりして、そりゃ、にぎやかでした。今では大晦日の一つの恒例行事にまでなった感じがします」とその模様を話す樋曽区長の三富一郎さん。反面、春秋に行われる祭りは、最近ではすっかり儀式化し、さびしくなってきたといいます。しかし、この樋曽地区にも新しい時代の流れでしょうか、二年前からふれあいを広げようと〝子供みこし祭り〟が誕生しました。「この祭り。二年前に子供たちに何かもっと楽しめるものをやってやろうというきっかけで生まれたんですよ」と三富区長さん。この祭りは、ことしも八月下旬に行われ、当日は子供みこしが地区内を練り歩いたり、盆踊りや花火大会などで一日中大にぎわいだったといいます。

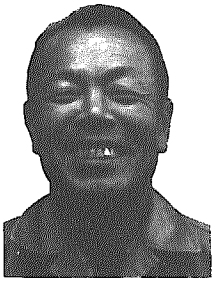


8月に行われた〝子供みこし祭り〟は大にぎわいでした

「いまはもう地区内では、この子供みこし祭りが一番にぎやかですね。子供からお年寄りまでみんなで心から楽しんでいますよ。おかげでこの祭りが始まってからは、親子のふれあいや地区民の交流が一層深まったような気がしますね」と新しい祭りの誕生をうれしそうに話す三富区長さん。

ところで、ここ樋曽地区は山林に接しているためか古くから林業も盛んで、山菜なんかもたくさん採れたといいます。しかし、最近では山林を手入れする人も減り、逆に山へ入る人が多くなったせいか乱獲状態にあるといいます。「大勢の人から山を楽しんでもらうことはいいんですが、なかにむやみに貴重な山菜や山草などを持ち帰る人がいるので、ちょっと困りますね」とマナーの悪さを心配する区長さん。

最後に「樋曽地区の人たちは、いろいろな職業の人たちが多いせいか、個性の強い人が多いんですが、いざ何かをやろうというときのまとまりの良さは最高ですね」と協調性のある点を話す区長さん。いろいろな話から、物静かな中にも新しい芽生えを感じる樋曽地区という印象でした。



樋曽区長
三富一郎さん
(63歳)

樋曽ミニデータ

人口と世帯数

人口	288
男	132
女	156
世帯数	61

(昭和63年10月1日現在)

編集後記

■みなさんは、村民体育祭に何か参加しましたか?当日はほんとうに大勢の人たちが野球・テニス・卓球などいろんな競技に一日中、心地よい汗を流していました。実は小生、競技には参加しなかったんですが写真撮りにと、村民体育館、空手・剣道会場の各会場を飛びまわったせいか、いい汗を流した一日でした。■ところで、毎月広報で「われらサークル」としていろんなクラブをご紹介しています。皆さんのところでぜひ〝わがクラブを〟というところはありませんか?どうぞご連絡ください(こ)■こういう編集という仕事をしていると、なにか目標というか目的みたいなものを持ってやらないとダメなような気がします。こう書くとなにか一家言的イメージがするかもしれませんが、実はさにあらず——。なにかを楽しみにする、待ち遠しいと思うようなものを目前に置くことなのです。時にはそれが一杯(酒を)やることであり時にはレジャーだったりするのです。■今号はその目的が編集前にあり!?なかなかエンジンがかかりませんでした。がでもあと数字で最終コーナーの後記も終わりだ…(み)